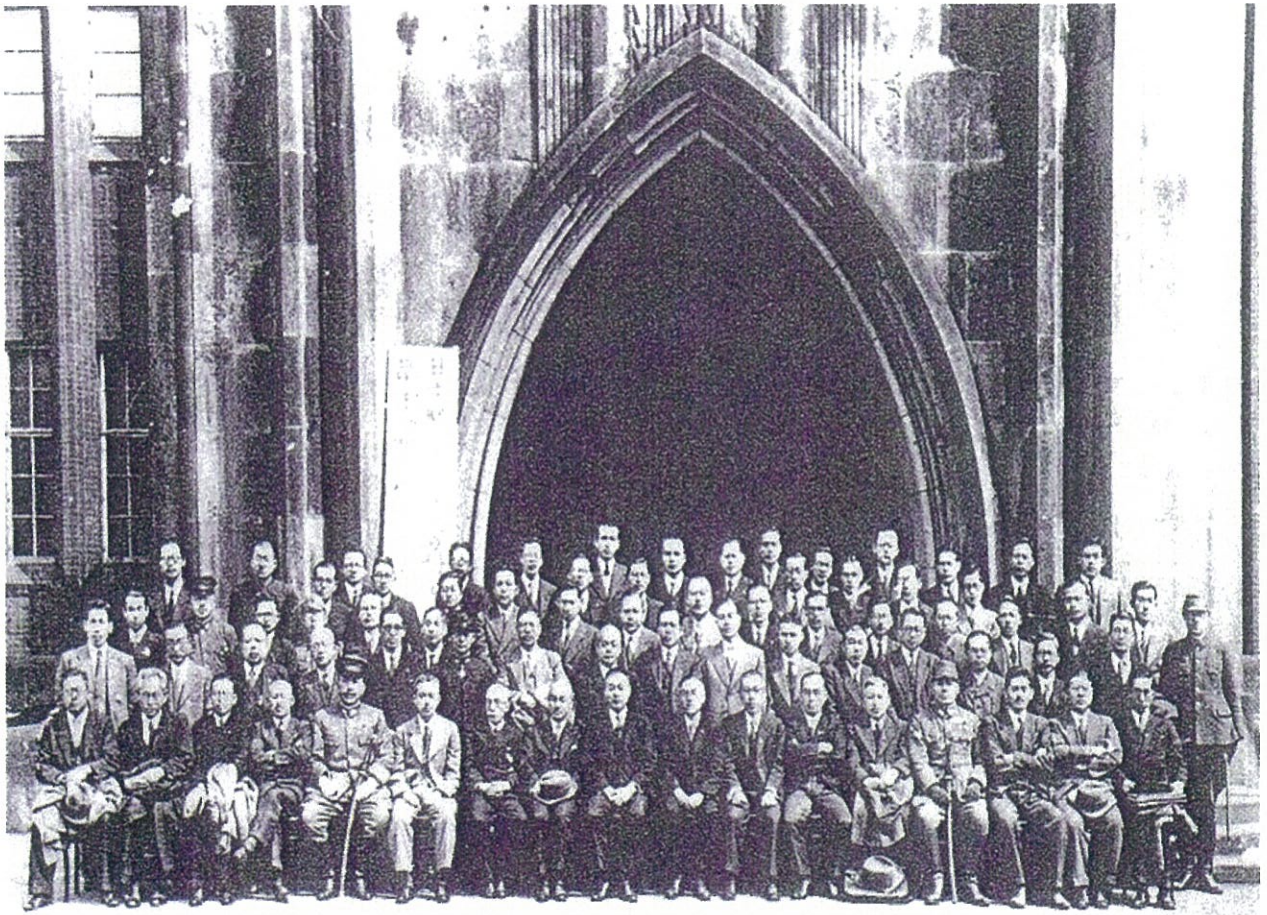


パネル集

戦争と医の倫理

日本の医学者・医師の「15年戦争」への加担と責任



1942年（昭和17年） 第11回日本医学会総会時の第9部微生物学分科会の
東京大学安田講堂前での記念撮影

目次

	2-13	宣撫医療	44
	2-14	植民地のハンセン病対策	45
	2-15	軍医と軍用「慰安婦」	46
*「戦争と医の倫理」パネル展示と国際シンポジウム開催趣意書	1		
*はじめに	2		
第1部 戦争中の医学者・医師が行った加害の史実	3		
1-2	石井四郎	4	
1-3	陸軍軍医学校防疫研究室	5	
1-4	東郷部隊の設置	6	
1-5	平房の施設建設	7	
1-6	731部隊の支部	9	
1-7	「マルタ」の「特移扱」	10	
1-8	731部隊の編成	11	
1-9	731部隊のペスト感染ノミの開発	13	
1-10	ペスト菌の「毒力実験」	14	
1-11	731部隊の凍傷実験	15	
1-12	731部隊の炭疽菌の実験	16	
1-13	流行性出血熱の実験	17	
1-14	防疫給水部隊の広がり	18	
1-15	南京1644部隊の人体実験	20	
1-16	関東軍軍馬防疫廠(100部隊)	21	
1-17	生物兵器による攻撃	22	
1-18	生物兵器の攻撃による被害	23	
1-19	生物兵器による攻撃についての 新資料	25	
1-20	化学兵器の野外実験	26	
1-21	九州帝国大学医学部事件	27	
1-22	「冬季衛生研究」	28	
1-23	戦場での手術法開発実験	29	
1-24	谷村らの凍傷実験と「弔辞」	30	
1-25	陸軍病院での手術演習	31	
第2部 日本の植民地における医学・医療と加害	32		
2-2	台湾	33	
2-3	朝鮮	34	
2-4	ミクロネシア	35	
2-5	満洲国	36	
2-6	満洲医大における生体解剖	37	
2-7	満洲医大の巡回診療	38	
2-8	新聞社主催の「満洲国」への 巡回診療	39	
2-9	上海自然科学研究所	40	
2-10	中国における同仁会医院	41	
2-11	同仁会機関の拡大	42	
2-12	東南アジア-インドネシア	43	
第3部 医学・医療の動員と抵抗	47		
3-2	医学研究における戦争動員 戦時下の日本医学会総会	48	
3-3	第9回日本医学会総会(1934年)	49	
3-4	第10回日本医学会総会(1938年)	50	
3-5	第10回日本医学会総会(1938年) における戦時体制下医学講座	51	
3-6	第11回日本医学会総会(1942年)	52	
3-7	戦時下の日本病理学会(1)	53	
3-8	戦時下の日本病理学会(2)	54	
3-9	日本民族衛生学会	55	
3-10	日本癩学会	56	
3-11	日本学術振興会と医学研究(1)	57	
3-12	日本学術振興会と医学研究(2)	58	
3-13	科学研究費と医学研究	59	
3-14	戦争動員による医師不足の対策	60	
3-15	医学生の戦時動員	61	
3-16	軍医として戦地におもむいて	62	
3-17	健民政策の強化と医療機関の 再編、医師会改組	63	
3-18	日本医師会の戦争協力	64	
3-19	日本医療団の創設	65	
3-20	看護婦の動員	66	
3-21	戦場の従軍看護婦	67	
3-22	戦時下の医薬品	68	
3-23	抵抗した医学者	69	
3-24	抵抗した医師・医学生	70	
3-25	医療・保健の実態 動員される 国民の身体	71	
3-26	徴兵検査	72	
3-27	動員の果てに	73	
3-28	優生政策	74	
3-29	戦時の人口政策	75	
3-30	ハンセン病患者の隔離強化	76	
3-31	餓死した精神病患者	77	
第4部 日本の医学会(界)の戦後	78		
4-2	15年戦争における戦争犯罪の免責	79	
4-3	731部隊の証拠の隠滅	80	
4-4	米国による戦犯免責	81	
4-5	ハバロスク裁判(1949年12月)	82	
4-6	中国の特別軍事法廷(1956年)	83	
4-7	九州大学医学部生体解剖事件の 戦後の検証	84	
4-8	731部隊関連医学者・医師の戦後	85	

4-9	ナチス・ドイツの 人体実験をめぐる裁判	86
4-10	ニュルンベルク綱領	87
4-11	ドイツ医師会の声明	88
4-12	その後のドイツ医学界の沈黙	89
4-13	ドイツ医学界による検証	90
4-14	『人間の価値』	91
4-15	敗戦直後の第12回日本 医学会総会（1947年）	92
4-16	世界医師会入会に際しての 日本医師会の「反省」	93
4-17	世界医師会における 戦争医学犯罪の追及	94
4-18	日本学術会議での 731部隊関係者の活動	95
4-19	戦後の日本医学界では 731部隊関係者に学位が授与	96
4-20	吉村寿人の弁明	97
4-21	731部隊とミドリ十字、 薬害エイズ・肝炎①	98
4-22	731部隊とミドリ十字、 薬害エイズ・肝炎②	99
4-23	米国の接收資料の行方	100
4-24	毒ガス弾遺棄	101
4-25	731部隊・細菌戦に関する 国家賠償訴訟	102
第5部 歴史の検証から これからの医の倫理へ 103		
5-1	戦争医学犯罪を省みる 今日的意義	104
5-2	医の倫理の重要性	105
5-3	不十分な「医の倫理」	106
5-4	医学者・医師の個人的責任	107
5-5	ドイツ精神医学精神療法神経学会 (DGPPN)の謝罪表明	108
5-7	不十分な「医の倫理」教育	109
5-8	有事法制で国民や医療を 動員する仕組み	110
5-9	戦争と医学研究・医療技術開発	111
5-10	産業と医学研究・医療技術開発	112
5-11	「戦争と医の倫理」の 探求の継続を	113

* 医学者・医師の戦争加担についての公式の検証
と反省を日本医学会に要請する
—2012年京都「戦争と医の倫理」の検証
を進める宣言— 114

* 「戦争と医の倫理」の検証を進める会	
・ 設立趣意書	115
・ 世話人会名簿	116

【共催展示】

明治大学平和教育登戸研究所資料館	118
明-1 登戸研究所とは	119
明-2 登戸研究所の設立	120
明-3 登戸研究所の研究・開発内容	121
明-4 登戸研究所と関東防疫給水部 のつながり	122
明-5 資料館について	123
	以上

<パネル展示>

【代表パネル展示】

会場：明治大学平和教育登戸研究所資料館
期間：2012年9月12日（水）～11月5日（月）

【代表パネル展示】

会場：立命館大学国際平和ミュージアム
期間：2012年9月14日（金）～10月8日（月）

【代表パネル展示】

会場：東京 都市センターホテル
（保団連医療研究集会）
期間：2012年10月13日（土）～10月14日（日）

【全パネル展示】

会場：京都大学 百周年時計台記念館
国際交流ホール
期間：2012年11月16日（金）～21日（水）

<国際シンポジウム>

会場：京都大学 百周年時計台記念館
百周年記念ホール
日時：2012年11月17日（土）午後3時～
パネリスト
Till Bastian（ドイツの医師、作家、平和活動家、郡会議員。著書「恐ろしい医師たち—ナチ時代の医師の犯罪」など）
刈田啓史郎（医学者。15年戦争と日本の医学医療研究会幹事長、元東北大学教授
座長
小島荘明（東京大学名誉教授）
川嶋みどり（日本赤十字看護大学名誉教授
司会
西山勝夫（滋賀医科大学名誉教授）